自治体名：秋田県上小阿仁村

自動運転社会実装推進事業

最終報告書（公開版）

**【事業背景・目的】**

上小阿仁村は、高齢化率が県内で最も高く、村民の日常の移動手段の確保や地域の活性化等が課題となっている。本村では、2017年より自動運転の実証を行い、自動運転の実現により、村民の安定的な移動手段の提供や公共交通ネットワークの維持、移動機会の増加による健康増進や地域コミュニティの維持、活性化を目指している。

**【事業内容】**

・運行場所：秋田県北秋田郡上小阿仁村、道の駅「かみこあに」 を中心として、役場や診療所等村の主要拠点を結ぶルート、全長約7kmに加え、本年度は村最大の人口を抱える沖田面ルート（約5.5km）を新設した。

・運行車両：ヤマハ製小型カートタイプ　7人乗り、全線レベル２での運行

・遠隔監視室：道の駅内の会議室に設置（昨年度設置のものを継続使用）

・運行期間：令和6年7月1日（月）～令和7年2月28日（金）

**【検証項目・検証方法】**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項目 | 検証項目 | 検証方法 |
| 経営面 | 料金、運賃等収入 | 運賃等の集計 |
| 経費等の支出金額 | 本年度実績による支出金額の設定 | 前年比2割減 |
| 技術面 | 安全面性 | ヒヤリハットや事故件数の記録 |
| 通信の安定性 | 全ルートにおける通信状態の調査 |
| 社会受容性面 | 利用者数 | 乗車記録の確認 |
| リピーター数 | 乗車記録の確認 |
| 利用者満足度 | 乗客アンケート調査 |

**【検証・分析結果】**

■経営面

・運行期間中の運賃収入が約30千円

・支出として、実証実験に要した企画費以外のランニング費として約千円を要し、結果として、支出が収入を大幅に上回ることとなった。

・支出のランニング費として、システム関連及び設備関連費が大部分を占めており、遠隔監視等システム維持・保守に係るコストを要している。

・今後、実証を重ねることで、システム改良や機能の簡略化による維持管理コストの削減の検討が必要となる。

・また、利用エリアの拡大による需要の増加が見込まれる。本年度は沖田面集落へルートを延伸したが、積雪の影響により、新規ルートでの一般運行の実証ができなかったため、来年度事業での検証を図る。

■技術面

【手動介入回数、ヒヤリハット回数】

・手動介入回数は合計61回、うちヒヤリハットによる手動介入発生回数はゼロであった。

・事故の発生数もゼロ回であった。

【通信の安定性】

・本年度新設したルートを含む全ルートにおいて、通信速度の状況調査を実施した。

・計測方法として、3キャリアのマルチキャリア方式による通信状況を確認した。

・各キャリアの品質は、それぞれ、全区間を通じて波があり、1キャリアのみでの単独通信では、遠隔監視に必要な映像（２Kレベル）品質を全区間に渡って維持すること

は困難と考えられるが、マルチキャリア方式とすることで、一部区間フレーム飛びが発生するものの、今後大幅な環境の変化がない限り、自動運転の遠隔監視の実施に支障はないと判断された。

【誘導線の断線】

・実証期間中に、合計9か所の誘導線の断線が発生し、12月中旬に応急復旧を行った。

・主な原因として、誘導線の劣化や路面環境の悪化、加えて冬期の除雪作業による影響が考えられる。

■社会受容性面

【利用者数・リピーター率】

・利用者は往復区別なしで延べ103人、往復を区別すると延べ117人、実数では76人となった。

・視察や体験乗車による利用者が多くを占めた。

・実数利用者の76人のうち8人、11％の方が複数回利用の方であった。

【利用者満足度】

・ヒヤリハットを感じたケースがあったものの、自動運転の安全性については9割の方が不安に感じないと評価した。

・自動運転車に対する満足度は「満足」「やや満足」との回答が76%となった。

・今後の自動運転の利用意向として8割以上の方で利用意向があると回答いただいた。また、その理由として、「サービスの目新しさ」を答えた方が半数を占めた。